

# 四谷地区協議会コミュニティ・文化・スポーツ分科会会議録

平成18年度第2回

開催日	平成18年5月24日
出席者	分科会員7名、オブザーバー2名(生涯学習財団職員) 四谷特別出張所長、担当 計11名
テーマ	・全体会発表及びパネル展示・アンケートについて ・「四谷の3ヶ月情報」の作成について ・四谷のコミュニティについて
決定事項	・「四谷の3ヶ月情報」を現時点の情報で作成する。(全体会で発表・パネル展示する) ・コミュニティに関しては「区民会議」のコミュニティに関する考えを見定め、「四谷のコミュニティ」についての考えを各委員が次回までにまとめておく。
主な意見等	<p>1. 情報・意見交換 ・役員会からの報告 地区協議会の全体会を地域センター多目的ホールで実施する。(6/15) 区民センター1Fホールで各分科会ごとに展示を行う。(6/6～6/15) 展示の際、地区協議会としてのアンケートを用意する。第4分科会単独でのアンケートは用意しない。なお、6/10に実施するオープンハウス(展示説明)の説明員は当分科会代表の松川リーダーが行う。 当分科会のアンケートの内容は「コミュニティ」についてのものとする。</p> <p>2. 「四谷の3ヶ月情報」について ・展示と全体会で使用するため、現時点で把握する情報で作成する。 作成した結果、情報量が多く3ヶ月も乗せられない場合を含め、次回の分科会で今回作成する「3ヶ月情報」について再検討する。 ・カレンダー代わりに使ってもらえるような実用的なものにしたい。あえて空欄を作っておくとそこに自分の予定を書き込んだりできる。</p> <p>3. その他 「四谷のコミュニティ」について(参考:区民会議のコミュニティ関係資料を配布) ・とらえにくい課題なので、各委員が思うことを自由に発表。 区民会議のコミュニティ関連分科会でも苦心している。区民会議ではハード面ではなくソフト面についてを議論している。 地域コミュニティの基礎である「町会」への加入者が減っている。高層マンション等集合住宅居住者は町会への加入が少ない。地域のコミュニティ活動への参加も少ない。 今は生活や趣味が多様化し地域のコミュニケーションがなくても生きていける。 町会への加入が増えれば地域コミュニティが充実し、防犯・防災にもつながる。 町会長として、集合住宅の町会加入に尽力したこともあったが、徒労に終わった。 「コミュニティ」という名がついているのは第4分科会だけ。しかし、他の分科会の内容もすべて「コミュニティ」といえる。そもそも「コミュニティ」とは? 「協働」とは? 区民会議や地区協議会に参加している我々でもとらえられない。他の人なら、なおさらである。自分たちには関係ないから、勝手にやって勝手によくしてくれればいいと感じているのでは。 地区協議会の存在を知らない住民が多い。知られていなければ地域の「声」は届かない。地域住民とのキャッチボールをしないと地区協議会の存在意義がない。 まず住民とのキャッチボールありき。区や地区協議会が主導してはいけない。 住民の意見の集約し、問題解決につなげることが地区協議会の役割であり、我々地区協議会が「核」となるべきものではない。 区も地区協議会も縦割りで横の連絡がない。地区協議会の本質は、地域の声を聞くことである。各分科会が縦割りになっては地域の声が届かないのでは。 集合住宅に住み、子どもも大きくなり手から離れると地域コミュニティと縁遠くなる。独り暮らしの若者ならなおさらでは。 四谷に住んでいる子どもたちは四谷の街が好きで大きくなってでも住み続けたい</p>

# 四谷地区協議会コミュニティ・文化・スポーツ分科会会議録

平成18年度第2回

と思っているはず。そのような若者・子どもたちを取り込みたい。

今ある区の199町会を活用して町会や地域コミュニティをPRすることはよいこと。

先日四谷中学校で運動会があった。天気の関係で日曜日の開催であったこともあり、大勢の保護者が参加し、例年にない盛り上がりであった。まだまだ四谷の街は捨てたものではないと感じた。今後も日曜開催にすればよいのでは。

コミュニティという概念の話に戻るが、都市型コミュニティだの何だのといっても何一つ明確になっていない。都会に住む人は地域コミュニティなしでも生活できる。そもそも地域コミュニティの活性化を目指して10年前に地域の活動拠点として地域センターができた。しかし10年経って利用度や認知度は低いままである。

区はコミュニティ事業の見直しをする必要がある。今のままでは同じことの繰り返しだ。

高層マンションの住民を地域コミュニティに取り込むには「行政」の力が不可欠。町会等の地域団体の力では無理。

地域情報を発信し、受けた人がどう考えるかは自由。情報を発信しつづけることが重要。情報の集約等は地区協議会が、そして地域情報のわかる身近な窓口として適任なのは「地域センター」では。今は地域情報の窓口が統一されていない。

行政やコミュニティに無関心な人をターゲットにすることは難しい。しかし、現在地域情報が届きにくい集合住宅等の住民のすべてが無関心であるわけではない。「キッカケがなかった」「知らなかった」という住民もいるはず。そういった人たちに情報をいかにして届ける工夫が必要。

・この分科会への子どもたちを取り込みについて  
まだ具体的には進めてしない。こちら側が「コミュニティ」についての考えや方向性をまとめてからでないと無理である。

次回の日程

6月20日(火)午後2時から 四谷特別出張所会議室